

10月30日、心配された台風もそれ、『掘川灯』が開催されました。

折尾駅から東筑橋までの掘川沿いを、1000個のカップに入った灯明と、1000個の紙袋に入った灯明の灯りで、どこか懐かしい雰囲気をかもし出す掘川沿いを優しく照らしました。

主催は「おりお未来21協議会」で、このイベントを通して素敵な折尾の街を再発見し、再開発で大きく変わろうとしている折尾の街に関心を持ち、ひとりでも多くの人が「まちづくり」に参加することを願って開催しています。

欄干にカップの灯明を取り付けることや、蠟燭の芯や大きさに試行錯誤を重ね、灯明を作るのに設置するのも時間もかかりましたが、多くの方々のお陰で、無事に点灯をして、みな様に幻想的な雰囲気を楽しんでもらうことができました。

その、みな様に楽しんでもらった後の灯明の片付けは、火を消してから蠟が固まるまで待たないといけなく、時間がかかる作業でした。

事前には、様々な許可や関係各所へのご挨拶なども必要で、1つのイベントを開催できるまでには、本当に沢山の関わりやみな様の協力無しには出来ないことを実感しました。

今回は、12月18日(土)に、8月に開催した「折尾北口での地上絵の灯明」と今回の「掘川沿い」の両方の場所をつなぎ、折尾駅前のイルミネーションとジャズの演奏などのXmasの雰囲気の中で開催する予定です。

それで、ローソクの点灯など、30分でもいいですのでご協力いただくと嬉しいです。みんな一緒に楽しみましょう！！

ありがとう折尾駅舎 駅舎解体と再生にむけて

～生まれ変わる折尾のまちとともに、これからも歩むために～

“おりお”を象徴する特徴的な外観の折尾駅舎。多くの人が出会い、交流してきた“おりお”。そして・・・生まれ変わるおりおのまちと折尾駅舎。折尾駅舎解体までの間、「お！リオ博」として、様々な活動に約1年間取り組み、折尾を見守り続けてきた“折尾駅”に感謝の思いを伝えます。

10月20日、「NPO法人シブヤ大学」学長の左京泰明氏のセミナーが「NPO市民講演会」でありました。

佐京氏は1979年生まれで、東筑高校、早稲田大学出身、2006年に「シブヤ大学」を設立されました。

「シブヤ大学」とは、渋谷の街全体をキャンパスに見立て、校舎も学費もない大学で、今、一番知りたいことを学ぶことのできる、ユニークな生涯学習の仕組みを作っています。2年間の活動で1万人を超える人々が大学の授業を受講し、参加者の8割が30代までの若者であることが最大のポイントで、日本のみならず海外からも注目を集めているそうです。その運営のノウハウを積極的に伝えるセミナーとあって、定員の100名を超える人たちが聴講にいられていました。

毎月第3土曜日に、渋谷区内の公共施設やカフェ、公園など、様々な場所を教室として、街に関わる人が生徒や先生になり無料の授業を開催し、自分の価値観で授業料を支払うシステムで、価値がないと思えば0円でも構わないそうです。

目指すは、学びから広がる街のコミュニティで、企業・行政・市民のサポートにより運営され、2009年度は4,977万円の収入があったというから驚きです。

収入の58%は企業で、シブヤ大学のweb等での広報の他、コラボレーションして、新製品の提案やヒントを企業が得たり、使い方を教えつつPRできるなどの授業です。

詳しくは、シブヤ大学のHPをご覧ください。 <http://www.shibuya-univ.net/>